

育成だより

第113号

【発行】 大刀洗町青少年育成町民会議 TEL 77-2670 FAX 77-2760

【編集】 大刀洗町青少年育成町民会議広報委員会

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定されていたほとんどの行事が中止になりました。そのような中、今できることを考え、最大限の感染防止対策を図りつつ、青少年の育成に取り組めました。

令和2年度 大刀洗町青少年育成町民会議の取組み

主な取組みは3つです。

「少年の主張」作文募集 (敬称略)

優 秀 作 文

小学生の部

大刀洗小学校	6年	棚町	涼
菊池小学校	6年	太田	愛音
同	6年	上濱	道大
本郷小学校	6年	山田	優衣
同	6年	古賀	柚稀
大堰小学校	6年	中嶋	初空

【(2)～(6) ページに全文掲載】

中学生の部

大刀洗中学校	1年	堀江	美羽
	1年	棚町	蓮也
	2年	税所	雅
	2年	平河	陽菜
	3年	龍	樹香
	3年	棚町	幸太

【(7)～(12) ページに全文掲載】



優秀作文の展示

期間：令和2年12月1日～25日
場所：ドリームセンター 1階フロア

「家庭の日」行事共催

中央公民館講座「親子を楽しむ！まなビィ講座」とのコラボレーション企画

◆まなビィ通信

コロナ禍で講座を開催できないため、情報発信チラシ「まなビィ通信」を町内小・中学校の全児童・生徒の保護者宛に配布し、町のプチ歴史、そしてデザートレシピや家族で楽しめるゲームを紹介するとともに、無料動画共有サイトから動画も配信しました。

第1回 「海のソーダゼリーレシピ」ほか

令和2年7月30日 (木) 発行

第2回 「大刀洗狛犬コレクション」ほか

令和2年10月29日 (木) 発行

◆「ビギナー親子で始める釣り講座」

自然体験企画として、釣り初心者親子を対象に釣り講座を開催。講義から実体験へと段階的に実施し、安全対策・環境保全を含めた知識を学んでもらい、海釣り体験を満喫していただきました。

第1回 【講義】 中央公民館

令和2年10月3日 (土) 開催

第2回 【海釣り体験】 福岡市海釣り公園

令和2年10月31日 (土) 開催

【(15)～(16)ページに関連記事掲載】



少年の主張

「私からのメッセージ」

小学生の部

感謝の気持ち

「ありがとう」の大切さ

大刀洗小学校

六年 棚町 涼

「ありがとう。」

みなさんは、「ありがとう」を一日どれくらい
言っていますか。

高学年の仲間入りをした五年生の春。ぼくは、登校中、見守り隊の方に「おはよう」と言われても、「おはよう」と言い返せなかったり、時間を教えてもらっても、少し頭を下げるだけで、「ありがとう」と言えなかつたりしていました。友達に何かしてもらっても、やっぱり「ありがとう」と言うことができませんでした。その頃のぼくは、はずかしいとか、知っている人に改めてお礼を言うのは照れくさいとかいう気持ちの先にでてしまい、心の中の思いを素直に出すことができませんでした。

ある日の下校の時、仲良しの友達が机の上に

忘れていった上ぐつ袋を、ぼくが追いかけて持っていくと、友達は、すごい笑顔で、

「ありがとう。」

と、ぼくに言いました。ぼくは、いつしゅんびつくりしたけれど、うれしくなって、自然と笑顔になりました。大したことではなくても、「ありがとう」の一言で、こんなにも温かい気持ちになり、「またしよう」と思うことができる…。ぼくは、この出来事で、「ありがとう」の言葉のもつパワーと大切さを改めて知りました。その時からぼくは、少しずつですが、「ありがとう」を言うようになっていきました。

六年生になり、これまでとは全く違う学校生活が始まりました。今まで当たり前だと思っていたことが、当たり前ではなくなり、多くの制限の中で生活する毎日。でも、だからこそ、感謝する場面が増えました。

例えば、おそうじボランティアさん。大刀洗小では、八月まで、子どもによるおそうじは行っていないませんでした。ぼくたちの代わりにおそうじをしてくださったのは、地域に住むボランティアの方でした。九名の方が交代で、食堂やトイレなどを毎日おそうじしてくださいました。コロナ感染が広がる不安の中で、ぼくたちが安心して

て過ごすことができたのは、ボランティアの方のおかげです。ぼくは、校内で見かけたとき、

「いつもありがとうございます。」

と、感謝の気持ちを伝えました。すると、笑顔が返ってきて、思いが通じたように感じました。

また、ぼくたち六年生にとつての最後の運動会。競技や時間は縮小されましたが、今までで一番心に残る最高の運動会になりました。密をさけるため、四色に分けたりセパレートコースにしたりして、先生方が工夫をしてくださったこと。大声は出さず、テーマやまとまりを考えて、応援団が工夫をして応援合戦をしたこと。ぼくは、応援団の解団式で、副団長として下級生に、心から

「協力してくれてありがとう。」

と、言うことができました。もちろん、先生方も「ありがとう」の気持ちを伝えたいと思い、六年生みんなでお礼の寄せ書きを渡しました。下級生も先生方も、

「こちらこそ、ありがとうございます。」

と、笑顔で答えてくれました。

今、ぼくは、感謝の気持ちを伝える「ありがとう」を、言葉にして言うことを心がけています。「ありがとう」の一言で、人の心はつながり、思

いやりの輪が広がるのを感じるからです。みなさんも、ぼくといっしょに、「ありがとう」の感謝の気持ちを伝えていきましょう。そして、大刀洗町を思いやりあふれる町にしていきたいでしょう。

救える命を救おう

菊池小学校
六年 太田 愛音

「十二万八千二百四十一」みなさんこの数字が何を表している数字かわかりますか。この数字は、一年間で殺される犬と猫の数です。病気や事故で死ぬのではありません。飼い主が飼えなくなり、保健所という所に連れて行かれて殺されてしまう犬や猫の数です。本当はもつと生きられるのに、人間の勝手に殺されるのです。私はとてもかわいそうに思います。

私は「いのちの救い方」という本で殺処分も事を知りました。その本には、多頭飼育や病気などで面倒を見きれなくなって捨てられることが多いと書いてありました。殺処分のされ方は、二酸化炭素の充満した部屋へ連れて行かれ、息ができなくなつて死んでいくそうです。私はこの事実を知つて悲しくなりました。生き

物の命を救うために私たちにはどんなことができるだろうと考えました。

まず、一番大切なのは、生き物を飼っている人の責任です。その動物の命を預かっているという自覚です。私は今、学級で「生き物係」、委員会では「飼育委員」をしています。学級では、カエルやメダカ、クワガタを飼育しています。毎日虫かごや水槽を観察することが私の楽しみになっていきます。エサをあげたり、掃除をしたり大変ですが、生き物が喜んでくれるよううれしくなります。飼育委員会ではウサギの飼育をしています。フンの掃除や、水替え、エサやり、草とり：たくさんの仕事があります。飼育委員の仕事をしている時に地面に埋まつて死んでいるウサギを発見したことがあります。死んだウサギのそばで、他のウサギはじつと死んだウサギを見ていました。まるで「大丈夫？」と心配しているようでした。この時、私は動物が死なないようにしっかりとおりお世話をしたと思うようになりました。

次に、多くの人に殺処分の現実を知ってもらうことです。たくさん生き物が殺処分されている現実を知ること、一人一人が命について考えることができるのではないのでしょうか。そ

のためにみなさんも、多くの人にこの事実を伝えてほしいと思います。

三番目に、寄付や保護団体の活動に参加することも考えられます。保護活動には、里親探しや犬の散歩、シャンプーなどいろいろなボランティアがあります。「殺処分0」を目指しているいろいろな団体が活動しています。私達の住む大刀洗にも捨てられた犬や猫を保護して育て、欲しい人にゆずる活動をしている人もいます。私も大きくなつたら、その人のように、生き物の命を救うためのボランティアをしていきたいです。

生き物の命を救うために、私はこれからも生き物の命について考え、大切にしていき、自分ができることからやつていきたいと思っています。

「自分で決めた道」

菊池小学校
六年 上濱 道大

「野球やめる。」

ぼくの心に、グサツと大きな刃物が刺さつたように感じました。この時のぼくは、監督に言い返すことができず、心に刺さつた大きな刃物を自分の力で抜くことができない悔しさだけが

残りしました。しかし、今のぼくならばつきりと
言えます

「ぼくは、野球を絶対にやめない。」
と。

みなさんには、将来の夢がありますか。ぼく
には、甲子園に出場するという夢があります。
この夢ができるきっかけを作ってくれたのは、
兄でした。ぼくが三年生の時、兄が習っている
野球の体験入部に行きました。そこには、いつ
もと全く違う顔つきでバットを振る兄の姿が
ありました。ぼくは、そんな姿を見て、「一緒に
野球がしたい。そしていつか兄を超えたい。」と
いう思いをもち、自分の意志で野球を習い始め
ました。始めた頃は、あこがれの兄と野球がで
きることに喜びを感じ、練習が楽しくてしかた
ありませんでした。しかし、高学年になったこ
ろから、自分の思いえがいたバッティングがで
きないことや練習のきつきから、少しずつ練習
をサボるようになりました。体幹をきたえる時
はやっていない振りをしたり、走り込みのときは
軽く走ったりと、野球をすることに楽しさを感じ
なくなっている自分がいました。そんな時、
監督に言われたのがあの一言でした。
「野球やめろ。」

野球に対する思いがない自分を全て見すかさ
れている様で、何も言い返すことができませ
んでした。家に帰り家族に相談しましたが、

「期待されているんだよ。」

と言われるだけで、悔しさは消えませんでした。
そこで、一人で野球について考えてみまし
た。その時、ぼくの頭にうかんだのは、兄のあ
かつこいい姿でした。兄を超えたくて自分の意
志で始めたことを思い出しました。野球を始め
ると自分で決めたのに、簡単に諦めようとし
ていた自分が、はずかしく感じました。今は、兄が
同じチームにいないため、兄と同じ夢である甲
子園出場を目指すことで、兄を超えようと考え
ました。今はこの甲子園出場という夢をかなえ
るために、きつい練習にもたえて、全力で頑
張っています。

ぼくは、この経験から自分で決めたことを簡
単に諦めるのではなく、最後までやり通すこと
の大切さを学びました。自分の夢に向かって努
力することは、簡単なことではないと思いま
す。きつい事やいやな事から逃げだしたいと思
う時もあるかもしれませんが、自分が決
めたことを最後までやりとげると、きつと良い
事が待っているはずですよ。ぼくは、そう信じて

これからも自分が決めた道をつき進んでいき
ます。

生きることの幸せ、 そして大切さ

本郷小学校
六年 山田 優衣

「この世に生を受けた幸福に感謝せよ。」

これは、私が大切にしたい言葉である。そう
思ったのは、ある出来事があったからだ。

今の私は、おいしいものを食べたり、友達と
遊んだりと元気に過ごしている。ときには怒ら
れることもあるが、とても幸せな生活を送って
いる。だが、二年前まではちがった。

私は三才のころから、がんという病気とたた
かっている。痛みが出て、病院に入院すること
になった。きつくて自分が思うように体が動か
せなかったり、薬もたくさん飲まされたりし
て、とても苦しい日々だった。退院をしても、ま
た再発してしまう。「どうして私だけがこんな
目にあうの。」と悲しくなった。つらかった。

病院にいる間にたくさんの方々ができた。仲
良くなった友達と遊ぶときが一番楽しかった。
だけど、仲良くしていた友達が何人も亡くなっ

た。「友達が亡くなった。」と聞かされた時は、すごく悲しかった。驚きのあまり、涙ひとつ出ずに、ただただぼうぜんとしていた。元気になったらまたいっしょに遊ぼうねって約束してたのに。そう思うと、悲しくて涙があふれてきた。

抗がん剤をうったり移植をしたりする治療を続ける中で、吐き気におそわれたりごはんが食べられなくなったりした。私はどんなやせていった。あまりにもきつくて寝たきりにもなった。個室にいるため、友達にも会うことができなくなった。「こんなきつい思いをするくらいならば、もう死んだ方がましだ。」苦しみのだん底に落ちた私は、とうとうとんでもないことを考えるようになった。

そんな思いで入院生活を送っていたある日、周りにいる病院の友達の姿が目に入った。その友達も自分と同じくらいつらい思いをしているのに、あきらめようとはしていなかった。それなのに、私だけあきらめてはいけない。この考え方はまちがっているんだということに気がついた。簡単に死にたいなんて言うてはいけないと思いはじめた。死にたいなんて考えた自分にだんだん腹が立ってきた。

それからの私は、治りように全力でいどん

だ。もちろんつらいときもあったが、あきらめずに頑張った。家族もお医者さんも応援してくれたから、私は頑張れた。退院してまた友達と遊びたい、そう思うと、今は頑張りたいと考えることができた。そんな周りの存在と支えがあったから、今の私がいる。

生きたくても生きられなかった人がたくさんいることを知ってほしい。そして、この生活が当たり前と思うのではなく、自分は生きていて幸せだと思えることが大切だと知ってほしい。「この世に生を受けた幸福に感謝せよ。」これから、亡くなった友達の分の命も、大切に生きていきたい。そして、自分が支えてもらったことに感謝の気持ちを持ち、患者さんを励ますことができるような医者には、私はなりたい。

今の私に重なる、座右の銘

本郷小学校
六年 古賀 柚稀

今日から始まったワールドカップの試合。試合終了後のインタビューが行われていた。「どれだけ本気になれるか。それに尽きる。」これは、試合後のインタビューを受けた全日本バレーポラー石川祐希選手の言葉だ。私は、こ

の言葉を聞いた瞬間、私の座右の銘にしたいと強く思った。この言葉は、勝ち負けよりも、魂をこめて一つ一つプレーを本気で取り組むことの大切さを私に訴えていると感じた。

私が石川選手の言葉に心を奪われたのは、ちょうど習い事のバレーボールについて悩んでいたときだ。なかなかバレーボールができない日々が続く中、久しぶりの練習試合があった。私は、体が思うように動かなかった。ミスを連発して、監督にしかられ、チーム内でも相手の失敗を責める言葉が飛び交った。そこから、チームのふん囲気が悪くなり、結果はぼろ負けとなった。

練習試合が終わり、「何で私だけ、ミスが多いんだろう。何であの子は上手なのに、私はできないんだろう。何がだめなんだろう。」とたくさん悩んだ。私より先に入部した友達は、レシーブが上手だ。私より上手い。私も上手になりたい。友達の上手さに嫉妬した。

そんなとき、石川選手の「どれだけ本気になれるか。それに尽きる。」という言葉に出会った。石川選手は、自分でレシーブをする。そして当たり前のように攻撃にも参加する。まさに全てが完璧に見える。でも、本人は満足をして

いなかった。私は、さらに上を目指す姿がカッコいいと思った。そして、気付かされた。私は、一つ一つのプレーを本気でしていなかった。私は、「どうせ練習試合だ。負けてもいいか。」という気持ちで心のどこかにあつたのかもしれない。チームメイトの上手さに嫉妬しただけで、自分自身の練習は全然していなかった。監督に、注意されたことでさえもできていなかった。友達は、一生懸命に声を出してチームを明るくしてくれる。そして、注意されたことを繰り返さない。友達は、一つ一つのプレーを本気でしていると分かった。練習もせずに、友達の上手さに嫉妬だけをしていた自分が、恥ずかしくなった。

私も、友達みたいにサーブカットやレシーブをがんばりたい。練習を本気で取り組み、友達との実力の差を埋めていきたいと思う。六年生も後少しである。今のメンバーとプレーできる日が少なくなってきた。だからこそ、一戦一戦を本気で向き合っていく。そして、悔いのないように練習したことを全て出し切りたい。最後の日、「続けてきてよかった。」と思えるように、残りの日を大切にしたい。

中学校に行っても、バレーボールを続けるつ

もりだ。そして、目の前の一球に本気で向き合いたい、レギュラー入りを目指したい。

「どれだけ本気になれるか。それに尽きる。」今後も私の心にもある座右の銘とする。

水害から大刀洗町を守ろう

大堰小学校

六年 中嶋 初空

今年もわが大刀洗町で、浸水という水害が起きてしまいました。水害とは、大雨や川の増水で川が氾濫していることを言います。ぼくは、この水害の経験を通していろいろ考えました。

七月六日、授業中に強い雨が降ってきました。雨はどんどん強くなり、とうとうお家の人がむかえにくるようになりました。ぼくは、「どうせすぐおさまるだろう。」

と思いながら、母の車を待つていました。ところが、車に乗るとき、激しい雨でぼくたちはびっしょりぬれてしまいました。車の中まで雨の音がひどく聞こえてきます。江戸橋から見える川は短時間だったのに、いつもより二〜三m増水していました。ぼくは、急に怖くなりました。

「またあんなことになるのかなあ。」

ぼくは、二年前の水害のことが思い出されまし

た。毎年大刀洗町は水害で危険な目にあっています。ぼくの祖父の工場は、足下まで浸水し材木や機械がぬれ、母や従業員の人の掃除でようやく片付いたと言っていました。土地の低い家や外で飼われているペットは…と考えるとぞっとしました。田畑が水につきり、農家の方は、作物がだめになって困られているのではないかと、体力のない子どもやお年寄りが増水した川に流されて亡くなってしまうようなことが起きはしないかと、ぼくは心配でたまりませんでした。学校が急に休みになったと、うかれている場合ではないのです。

今回の被害は、昭和二十八年水害とよく似ていました。怖い思いをしている人がいることを思うと、やっぱり水害を防ぐ方法を真剣に考えるべきだと改めて思いました。ぼくは、五年生の総合的な学習の時間に学習した「自助・共助・公助」のことを思い出しました。

「自助」とは、自分が危ないときには無理をせず安全な場所に自分の力で避難することを、「共助」とは、自分が安全で家族や他の人が危ないとき助け合って避難することを、「公助」とは、国や県などが堤防等の対策を練って町や人を水害から守ることなどをいいます。被害を減

らすための考え方としてとても大事だと思えます。毎年、こうやって水害があると慣れてしまい、防災への意識が薄まり、けがや取り返しつかないことが引き起こされるかもしれません。ぼくたちはハザードマップや非常食を用意したり、町・県・国はきちんと対策を練ったりして、それぞれの立場で、用心深く対応しなければならぬと思います。そしてぼく自身も、普段から近所のお年寄りの方とのコミュニケーションをとって、危険が迫ったときお互いに声をかけ合う関係を作っておかなくてはならないと思いました。

七月六日の水害を無駄にせず、避難や対策を練ることはとても大切です。大刀洗町の防災についてぼくも続けて考えていきます。皆さんも一緒に考えて見ませんか。



少年の主張

「私からのメッセージ」 中学生の部

家族がいるから

大刀洗中学校

一年 堀江 美羽

「あなたの宝物は何ですか。」もしこのような質問をされたら私は真っ先に「家族です。」と答えると思います。元々、自分の宝物といえば自分の命でした。しかし、あるアニメを見て私の考えは百八十度変わりました。

そのアニメは、みんなも知っている「ドラえもん」です。八月頃、「人の存在」というテーマで道徳の授業をしました。その時に見たドラえもんが私の考えを変えたのです。

のび太は独裁者になれる独裁者スイッチを使って世界中の人を消してしまい一人きりになってしまいます。一人きりでは何も出来ないことに気づき人の存在の大切さを知る、というストーリーです。私は、これを見終わった後、家族に対して感謝の気持ちがかみ上げてきました。

た。家に帰ってなぜ感謝の気持ちがかみ上げてきたのか、家族がいないと私はどうなるのか考えてみました。家族がいないと、「早く宿題をしない。」「早くお風呂に入りなさい。」と急かされることなく、自分の好きな時間に好きなことができてもいいかもしれません。しかし、家族がいなくてできないことがあります。料理や家事です。私の家の夕食は全てお母さんの役割です。私は料理はあまり得意な方ではないので作る時はお母さんに教えてもらっています。家族がいなかったら、私は何も作れず飢え死にすることもかもしれません。このように考えたから道徳の時、「家族に感謝」という思いになったのだと思います。

しかし、家族ついでいやだなと思ったことが一回だけあります。それは、お母さんの機嫌だけで何もしていないのにおこられたことです。みなさんもこのような経験をしたことがあると思います。おこられたあとすぐに機嫌はよくなったけど何もしていないのにおこられるのはいやだなと思いました。機嫌が悪くておこられたのは、一回だけなので家族ついでいやだなと思ったのはこの時だけです。

しかし、家族は悪い所ばかりではありません

ん。小学校三年生の時、友達とけんかして泣いて家に帰ったことがあります。その時、お父さんは私の話を静かに真剣に聞いてくれてアドバースもしてくれました。また、社会のテストで百点をとった時やできなかったことができるようになった時、お母さんは私以上に喜んでくれました。この瞬間、私はこの家族に産まれてくれてよかったですと毎回思います。家族には感謝の気持ちしかありません。

家族がいるとおこられていやな気分になるしイライラもします。だけど、家族がいるから私はここまで育つことができました。私の考えを変えてくれた「ドラえもん」にも私をいつまでも見守ってくれている家族にも感謝します。いつもありがとうございます。これからもよろしく。

名前のありがたさ

大刀洗中学校

一年 棚町 蓮也

みなさんは、人の名前のことについてどう思っていますか。

ぼくは、小学生の時に、友達から「蓮也」という名前を「れんこん」とよばれました。ぼくは、自分の名前をバカにされて、笑ってごまかして

いたけど、心の中では、とてもかなしい気持ちになりました。ぼくも、人の名前をバカにしたことがあります。かるい気持ちでバカにしてしまいました。相手の人も、ぼくと同じように笑っていました。心の中では、かなしい気持ちになっていいます。相手の人も、かるい気持ちでぼくの名前をバカにしたいと思います。ぼくは、以前かるい気持ちで、友達に、「くそ」や「しね」などという言っではいけない言葉を言っしまいました。ぼくが、今までで、こうか

いしたと思う時は、いけないことをしてから、こんなことしなければよかったですと思っ、こうかいしてきました。人の名前をバカにした時に、言われた人がとても傷つきます。もしかしたら、名前をバカにされたことで、学校にこなるかもかもしれません。かるい気持ちで人をバカにしたり、いじめたりするといじめた人も、こうかいするし、いじめられた人はいじめた人よりも、心に傷がのこると思います。そして、かるい気持ちで人をいじめたり、名前をバカにしたりすると、その人の人生にもかかわるかもしれません。だから楽しい人生をおくるためには、人の名前をバカにするだけではなくて、人をたたいたり、「しね」や「バカ」などという人を

傷つける言葉をつかわないなど、自分にできることをして、人を傷つけないようにするにはどうしたらいいのか考え行動をすれば、クラスのみんなが、楽しく安心して過ごすことができるクラスになります。今の自分たちをふりかえってみると、少し暴言や相手の気持ちを考えない行動などがみられるときがあります。これから、少しずつみんなで協力して、そのようなことをなくしていきたいです。そして、これから大人になってもこのことを忘れないでいることが大切だと思います。

ぼくは、まず最初から、学校で実践することはむずかしいと思うため、家族に対しての話し方や接し方、けんかをしないなどということから、少しずつ実行することで、学校で人に対して暴言を吐いたり名前をいじつたりしないようになると思います。つぎに、ふざけて人のことをバカにしたりいじつたりする人に対して、注意をしたり止めたりすることができるようになると思います。これら積み重ねが安心して、誰もが通うことの出来る学校作りの第一歩だと思います。

祖父から学んだこと

大冢中学校

二年 税所 雅

みなさんは命の大切さについてどのようなことを考えていますか。大切な人が亡くなった辛さ悲しみを知っていますか。

私は六年前に大好きな祖父を亡くしました。原因はステージ四の末期ガンで、余命は一年でした。その時の私は小学校二年生で私たち家族はとてもショックを受けていました。祖父のしたいことをしたり、行きたい所に行ったりしました。それはとても楽しい日々でした。祖父はいつも笑顔で、こんな楽しい日々が、これからはずっと続いていくだろうと考えていました。でも、その時の私は祖父の辛い闘病のことを知りませんでした。

「がん」と聞けば思いつくことがたくさんあると思います。その中でもきついことが「抗がん剤治療」です。がんがんと診断されてから始まった抗がん剤治療。始めた頃の祖父はずっと笑顔でした。でも、薬の投与の回数が増すにつれて祖父はやせてしまい、笑顔もだんだん減っていききました。祖父は

「亡くなる時は家に帰りたい。」

と言っていました。お医者さんからは

「病院でも、家庭に帰られても、どちらでもいいですよ。」

と言ってくれました。もちろん、家に帰る選択をしました。でも、お医者さんに言われたことがもう一つありました。

「家庭の場合、医療器具を持つていくことが出来ないため、そう長く生きられるとは限りません。」

それでも祖父は最期を家で過ごすことを選びました。

家に帰っても祖父の体調は良くなりません。でも、祖父が弱音を吐くことは一度もありませんでした。私はそんな祖父がたくましく見えませんでした。

そしてとうとうその日がやってきました。祖父は弱々しい声でこう言いました。

「コーンスープが飲みたい。」

それを聞いて祖母は、キッチンに向かい、コーンスープを作りました。コーンスープができて祖父のもとへ行き、つくったコーンスープを祖母が祖父の口元へもっていききました。

「おいしい。」

と祖父の口から一言でできました。祖父は、

「ごちそうさま。」

と笑顔で一言残し、眠るように、命を落としました。兄が必死に

「じい、起きて。」

と言うと、一度息をふきかえしましたが、祖父の体力は限界だったのでしよう。祖父が息をすることはもう二度とありませんでした。家族、親戚、みんなで泣きました。

私が祖父を亡くして感じたことは、大切な人を亡くして、悲しまない人はいないこと、そして「死」はいつくるか分からないから「今」を楽しむことがとても大事ということです。

私は楽しむ時は全力で楽しむこと。いやなことを忘れて笑顔で今を過ごしていくこと。この二つをこれから実践していきたいです。

私は将来看護師になり、たくさんの方の命を、すくい、患者さんや患者さんの家族を支え笑顔でいっぱいの方にしていきたいです。そのためにまずは、周りで困っている人に声をかけたり、元気がない人に元気を与えたりできるように、自分から進んで行動していきたいです。

一日の大切さ

大刀洗中学校

二年 平河 陽菜

私はこの数カ月間で日々の大切さを考えるようになりました。なぜなら、新型コロナウイルス感染症の影響で、生活環境がとても大きく変わったからです。

私が生活する中で一番大きく変わったことは学校生活です。当たり前のように学校に行き、授業を受けたり、友達と遊んだり、話したりしていた日常がコロナウイルスにより、突然奪われてしまいました。二月頃からコロナウイルスのニュースが世界中で流れはじめ、私たちは三月から約三カ月間学校が休校になり、三年生を送り出す卒業式や新入生を迎える入学式にも参加することが出来ませんでした。友達とも会えず、どこにも行く事が出来なくなり、とても辛く、今まで当たり前のように生活していたことが、当たり前前のことではないということに気付かされました。五月中旬から学校に行く事が出来るようになったと思ったら、密をさけるため分散登校で、授業は午前中だけ、新しいクラス仲間全員と顔を合わせることもなく、給

食を食べることも部活をすることも出来ませんでした。六月から学校は再開されましたが、学校ではマスクをつけたままの生活、間隔を空けて座ったり、部活の時も専用のマスクをつけてたりと、学校生活が今までとは大きく変わりました。他にも、コロナウイルスによりゴールデンウィークや夏休みにどこかに出かけることも出来なくなり、夏祭りや花火大会までも中止になりました。ここまで来ると、コロナウイルスが私達になにかを気付かせようとしているのではないかとも思いました。今の生活がまたいつ出来なくなるか、これからなにが起こるかわからない状況なので、一日一日を大切にしていこうと思えました。でもいざとなると一日一日を大切にすることは何をすればいいかわかりませんでした。そこで考えてみるとこの二つを意識して生きる事が大切なのではないかと思いました。

一つ目は、「一日を精一杯生きる」ということです。今までの自分だったら、ただ学校に行き、ただ部活をして、何も考えずに当たり前前に生活をしていました。でも、今は学校の教室でみんなと授業を受ける事が出来る、部活もみんな出来るからただ当たり前にするのではなく、ど

んな事も精一杯するようになりました。そうした事で、授業や部活に対する意識を良い方向に変えていく事が出来ました。

二つ目は、「感謝する」ということです。今までの自分だったら「学校めんどくさいな」「部活暑いな」と思って、ただ学校に行っていました。でも、今は学校に行けてうれしい、部活が出来たのも当たり前ではないと思うようになりました。だからこれからも学校だけでなく、色々な事に感謝して生活したいと考えるようになりました。

一日でも早くマスクを外して生活したり、何も気にしないで外に出られたり出来る日々に戻れるように、しっかりと予防をしながら、今学校に行けることを当たり前と思わず、一日一日を大切にし、精一杯一日を生きて、色々な事に感謝していきます。

大切な人

大刀洗中学校

三年 龍 樹香

私には保育園に行ってる時からずっと一緒に遊んでいた友達がいました。

でもその友達はある日突然学校に来なくな

り連絡もまったくつかなくなりました。携帯電話もつながらなくなつて、家に行つても会つてもらえませんでした。ずっと一緒に居ることが「当たり前」と思っていた友達がいなくなり「ああ、当たり前なんかじゃなかったんだ。」と思いました。その時、私の中で何か大切なものが欠けたような気がしました。

毎日、学校に行き友達に会つていろいろなおしゃべりをして遊んでみんなと一緒に帰る。そんな当たり前前で普通の毎日がずっと続くと思つていました。しかし、突然それが消えてしまったのです。

ある日、私は祖母にこの事を相談してみました。すると祖母は少し考えてゆっくりと話してくれました。

「人はね、ちよつとした事で変わつてしまう事があるんだよ。だから一人一人、その時その時を大切にしないといけないんだよ。」

私はそう祖母に言われてもあまり理解ができませんでした。だから、祖母に、「でも、小学校から全然変わらない人だつていいよ。」

と言いました。すると祖母は

「中学校でも沢山の人に会つたでしょ。でも、こ

れから先、もつともつと沢山の人に会つていくの。そしてその沢山の人と会つて話したり、遊んだりして、人は少しずつ変わつていくのよ。」と教えてくれました。私はこの祖母の言葉を聞いて考えました。これから高校や大学に行けばそこで新しい人に出会い、そしてまた新しい友達ができる、そしたら今まで遊んでいた友達とは遊ばなくなつてしまふのだろうか。すると祖母は少し悲しそうな表情でこう言いました。

「おばあちゃんぐらゐの歳になると色々な人と簡単に会えなくなつたりするからあの日、あの時間をもつと大切にすればよかったと思つてしまうことがある。だから、あんたも今の友達を大切にしなさいね。」

祖母といろいろ話して私はふと思いました。私はその友達が学校に来なくなり、連絡がつかなくなった時に何か一つでも行動したのか。二、三日来ないだけで、またすぐいつもの毎日に戻るだろうと軽く思つて何も行動していませんでした。祖母の言葉が今だに心にひつかかっています。

これから色々な人と出会つて、色々な経験をするとします。でも私は、できるかぎり一人一人との時間を大切にしていって何かあった時には

勇気を持つて行動していこうと思います。皆さんも今の大切な人との時間を後悔しないように過ごして下さい。

たくさんのお話を学んだ三年間

大冨中学校
三年 棚町 幸太

「やるからには全力でしろ。」

これが、クラブチームに入るためにした両親との約束でした。

小学校の野球チームを卒団した僕は、中学校で野球をするのか、それともクラブチームで野球をするのかとても悩んでいました。

最終的には、より高いレベルのチームで野球をして自分の実力をためてみたいと思ひ、クラブチームに入団しました。

初めて、クラブチームの練習に行った時、僕はとてもびっくりしました。実力、体つき、全てクラブチームの他の人よりおとつていふ事をつうかんしたからです。このまま三年間じつとしていると、みんなから、おいていかれるだけで、何をしにクラブチームに入ったのかわからなくなつてしまふと思ひ、毎日の自主練を始めました。試合の時に、打てるように一つ一つの

場合をイメージしてバットを振りました。

三年生になった時、背番号を決める投票がありました。ひとケタをもらえるのは九人で、キャプテンから順に名前が呼ばれました。七番のときに、自分の名前が呼ばれました。うれしさとおどろきが同時にこみあげてきました。今年一年、全力で取り組んでいこう、そう思いました。

その矢先、コロナウイルスが流行し始めました。部活をがんばっていた人達には、中体連という大会があつたと思います。それと同じように、ぼく達もジャイアンツカップという大きな大会がありました。しかし、コロナウイルスの感染拡大で中止になってしまいました。目標を失った僕たちは、今までのように練習にうちこむことができなくなりました。

学校にも登校できなくなり、野球の目標もなくなってしまうた自分は、今年是最悪な年だなと思いました。しかし、ニュースなどを見て、自分と同じ思いをしている人はたくさんいること、今の状況を楽しもうとしている人がいることを知り、今しかできないことを楽しもうと思えるようになりました。

ぼくは、クラブチームに入団することができ

とても良かったと思います。クラブチームの仲間、ほとんどの人が同じ中学校ではありません。クラブチームに入団していなかったら、関わることはなかった人達ばかりです。そんな、貴重な体験をさせてくれた両親に感謝したいです。

ぼくが、この作文で伝えたかったのは、毎日続けてきたことはいつか結果につながるということ、今しかできないことを楽しんでいてほしいということです。

しかし、毎日続けても結果につながらないことの方が多いいと思います。それでも、続けることに意味があると思うし、目標を達成できた時に、努力した人としていない人ではうれしさが違います。その達成感を味わうために、まずは小さなことでもいいのでチャレンジしていきましょう。

また、今コロナウイルスでいままでできていたことができなくなっています。しかし、できなくなつたことがある分、今しかできないこともあると思います。だから、今しかできないことをみなさんには見つけてもらって、一日一日を楽しんでいってほしいです。



ふれあいウォーキング大会

大堰校区民会議
永野 由季

十月二十四日(土)第二十回大堰校区ふれあいウォーキング大会が開催されました。天気は快晴、参加者は子どもと大人を合わせて約百二十名と非常に多くの方に参加していただきました。今回は、新型コロナウイルス対策の為、班分けをして時間差で出発し、大人のリーダーを先頭に、憩いの園から片ノ瀬公園まで歩きました。

道中は、どんな野菜が植えられているのかを教えてもらったり、川の様子を見たり、子どもたちにとって多くの発見や学びがあったと思います。また、最近話題の鬼滅の刃のマネをしている子もいてとても賑やかでした。

昨年は、公園でレクリエーションをしましたが、今回はできなかったので、充分休憩をしてから憩いの園まで戻りました。

その後は、子どもも大人も楽しみにしている抽選会がありました。あらかじめ事務局がくじを引いていたので、帰り着いた人から景品を受け取ります。みんな自分の番号を探して、何等が当たっているのか、ドキドキ、ワクワク、様々な表情が垣間見えました。

今回は、新型コロナウイルス感染症の影響で、ウォーキング大会の開催が危ぶまれましたが、皆さまのご協力の下、無事開催することができました。ウォーキング中に子どもたちの笑顔をたくさん見ることができて本当に良かったと思います。開催にあたり、ご協力頂きました皆さま本当にありがとうございました。



レジリエンス

本郷校区民会議
会長 岩崎 耕市

十一月十五日、米宇宙企業スペースXにより、野口聡一さんから四人の宇宙飛行士は新型宇宙船「クルードラゴン」に搭乗し、国際宇宙ステーションへ向かった。今回の機体を「困難から回復する力」などの意味がある「レジリエンス」と名付けた。

野口聡一さんは、十五歳の時スペースシャトルの打ち上げをテレビで見、衝撃をうけました。「宇宙に行きたい・宇宙を目指す宇宙少年」になりました。夢を目指す道のりの中ではいろんなことが起きます。時には怖さ・不安に駆られることもあるでしょう。そうして夢をあきらめてしまう人もいるかもしれませんが、「誰にでもできるが、誰もしない」一番シンプルなこととして、体調管理法を語っています。一日に三・四回体重を量ること。やはり必要なのは続ける根気・努力ですね。

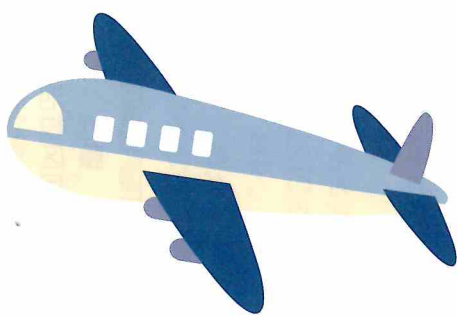
「新型コロナウイルスの中で手洗いは入念にする・部屋にいるときは換気を十分にする・マスクを着ける。」

育成会活動の難しさを痛感いたしております。年間計画も根底より覆され、何をやるのではなく、何が出来るか悩んだ一年でした。子どもたちが元気に学校に行くことを見守り、逆に励まされました。

十一月四回に分け、よく飛ぶ競技用紙飛行機集の本を買ってきて画用紙にコピーし、紙を切り抜いて張り合わせ、手間はかかりますがその面白み尽きないと思ひ、昼休みに体育館で作って飛ばしました。私が作った機体を持って下高橋官衛遺跡で飛ばしてみたら風にも乗り、よく飛んだので自信満々でしたが、体育館では風もなく散々でした。

中村さんと近藤さんに手伝ってもらい、校長先生・教頭先生にもご協力をいただきました。有難うございました。

この子どもたちも、将来飛行士を目指してくれらると思いました。



コロナ禍の中

大刀洗校区民会議
会長 堀内 弘樹

「どげんする。「どげんしたらいいと。」

そんな会話ばかりの大刀洗校区育成会（校区民会議）の話し合い。

今年二月初旬に新型コロナウイルスの報道があり、もうすぐ一年が経とうとしています。感染爆発で世界中がパニック、三月から学校も休校要請が出て、卒業式や入学式もいままでは違い感染対策をされた形です。とりおこなわれました。

そうした中で、大刀洗校区育成会でもどういう形で活動していいかわからないまま月日だけが過ぎて行きました。

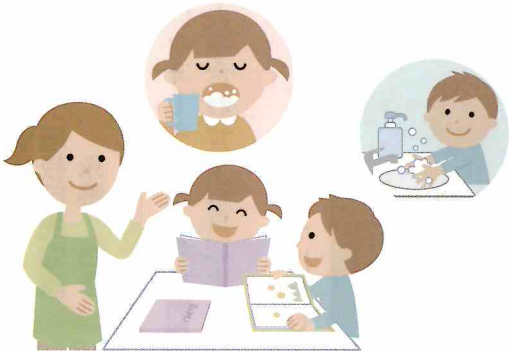
学校側が実施されている新型コロナウイルス感染防止対策の除菌、消毒作業とか、先生達の朝の健康チェックなどされているのを見ると、大刀洗校区育成会活動で何かあつたらと思うと不安になります。

数回行われた役員会では、「取りあえず十二月までは止めておこう」という判断でした。それが正解なのかどうか分かりません。

子ども達には、「頑張ってみよう。」とか、「自分で考えてみて。」

とか言いながら、感染リスクを考えると、何をどうしたらいいか思いつきません。このまま行事をとりおこなう事が出来ないまま一年が終わると思うと、もどかしい気持ちでいっぱいです。

次年度こそは、何か出来る事を願いたいと思います。



コロナ禍によりすべての活動が中止に

菊池校区民会議
近藤 和廣

山隈区、北山隈区、西大刀洗区、北鶴木区で構成している青少年健全育成菊池校区民会議は、十一月の「歩け歩け大会」、一月の「モグラうち作り」及び「もぐらうち」行事を主催事業として実施しています。

二〇一九年の「歩け歩け大会」は筑前町多目的運動公園へのウォーキングに花立山ファームでの芋掘りを加えたことで、子どもたちばかりでなく大人にも好評でした。

しかし、二〇二〇年度は新型コロナウイルス感染症の世界的な急拡大の中でのスタートとなりました。六月十一日（木）に就業改善センターで開かれた青少年健全育成菊池校区民会議（黒岩優会長）の第一回役員・評議員会で、「歩け歩け大会」と「モグラうち作り」及び「もぐらうち」行事についての検討がなされ、「子どもたちのための活動だから、やめるのではなく、実施できないのか」という結論になり、「歩け歩け部」（石橋利隆部長）とモグラ打ち作りとモグラ打ちを行う「伝統行事部」（西岡健部長）、それぞれの担当部が実施に向けての検討をすることになりました。福岡県では夏に新型コロナウイルスの第二波が押し寄せ、七月三十一日には第二波で一日の感染者が過去最多となったことから、歩け歩け部については、「部内で何度も協議し、様々なアイデアを出し検討してまいりました。新型コロナウイルスの終息のめどがたっていない状況で、参加者の安全確保が難しい」との結論に至り、中止を決定しました。

伝統行事部についても、「もぐらうちの『無病息災を祈る』という意味合いからも、今般のコロナ禍終息を祈って、もぐらうちをしたい」というところではありますが、もぐらうち作りでの密集・密接は避けられず、コロナウイルス感染・拡大を防ぎながらの事業は難しい」との結論に至り、中止となりました。

二〇二二年度は、ワクチン接種により新型コロナウイルスの感染が収まり、青少年健全育成の事業が滞りなく実施できることを願っています」と黒岩優会長。



親子を楽しむ!

まなビィ講座



『家庭の日』と親子対象の講座『まなビィ』とのコラボ企画、親子を楽しむ!まなビィ講座。
令和2年度は、2回まなビィ通信を発行し、1講座を開催しました。

まなビィ通信

まなビィ通信 第1号

令和2年7月30日(木)発行

- 中央公民館ロビー壁の大刀洗町の形をしたモザイクタイルの紹介
- 「たまには親子でボードゲームしよっか!」(ナインタイルの紹介)
- 「海のソーダゼリーレシピ」



毎月第3日曜日

家庭の日

家庭の日(毎月第3日曜日)には

- 家族みんなが顔をそろえよう
- 子どもの意見や考えを聞くようにしましょう
- 家族みんなでスポーツやレクリエーションをしよう
- 家庭を離れている家族と連絡を取りあおう
- 子どものしつけや方法について考えよう

QRコード



ボードゲーム 動画



ソーダゼリー 作り方動画

まなビィ通信 第2号

令和2年10月29日(木)発行

- 「マシュマロチョコムースの作り方」
- 「たまには親子でボードゲームしよっか」(ブロックスの紹介)
- 「大刀洗町狛犬コレクション」(町内神社のいろいろな狛犬を紹介)



マシュマロチョコムースを作ってみて、短時間で作れました。材料を混ぜるだけなので、1人でも簡単に美味しいデザートを作れます。甘くてとっても美味しかったです。

大刀洗中学校1年生
ミュさん

とてもかわいく
作ってくれました★



QRコード



マシュマロチョコムース 作り方動画

ビギナー親子で始める釣り講座

第1回 講義

令和2年10月3日(土)開催

文字通り初心者親子の4組10名が参加され、釣りの基礎からの講義。興味津々に話を聞かれています。

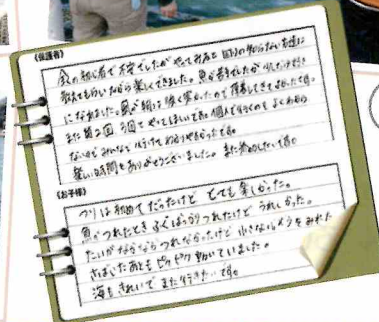
前段は、安全管理・マナー・釣り具の使用法等の座学、後段は、釣り糸の結び方等の実習を行いました。



第2回 海釣り体験

令和2年10月31日(土)開催

当初予定していた10月17日は、台風の影響で延期。改めて挑戦したこの日は秋晴れとなり、3組7名の親子が参加されました。サビキ釣りや真鯛釣りを体験。親子で協力して釣りを楽しみ、会話も弾みました。



編集後記

昨年は、新型コロナウイルスにより世界が未曾有の被害に見舞われ、人々は感染防止の元活動停止を余儀なくされ、社会も経済も停滞した。大人も精神的に追い込まれたが、やはり子供達の事が心配された。三月からの学校の休校に部活動の禁止と従来の生活が一変し、希望を失いかけたことであろう。

その中で、少年の主張では子供達が独自の感性で思いを発して、自分が出ることをつつとやっていくという一見普通のことだが、その大切さを我々大人へも教えてくれた気がする。

今後増々難しい時代になるであろう。だが希望を持って道を拓いて欲しい。そして、明るく新しい日本へ未来を描いて欲しいと願う。 (山本 忍)

- | | | |
|---------|-------|-------|
| 【編集委員長】 | 大堰校区 | 山本 忍 |
| 【編集委員】 | 大堰校区 | 永野 由季 |
| | 本郷校区 | 大山 美香 |
| | 大刀洗校区 | 原野 広記 |
| | 菊池校区 | 近藤 和廣 |
| 事務局 | 西村 智道 | |
| 事務局 | 原模 勝美 | |